

平成24年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ イソベキンジ
氏名 磯部錦司

研究期間 平成24年度

研究課題名 生命主義的自然観を基軸とした造形芸術による教育
ーシドニー・ボルドー・日本でのフィールドワークからー

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	磯部錦司	教育	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究は、2001年より試みている「自然観・生命観を基軸とした造形芸術による教育」についての一連の研究におけるワークショップ事例と自身の制作に関わる研究である。包括的な自然観・生命観を視点に芸術活動の意味と役割について検討し、造形活動のプロセスと実践事例から、想像的機能、統合的機能として造形活動を位置づけ、社会的創造活動としてその内容を意味づけていくことを目的としている。これまで関わってきたデンマーク、チェコでの活動を発展させ、今回は、シドニーと日本でのコラボレーションでの実践事例からその内容を具体的に示した。また、自身の制作活動をとおり、ボルドーでの作品発表において主題の具体化を試みた。

2. 研究方法等 (300字以内で記述)

○コラボレーションによるワークショップの実践事例
・2003年名古屋とシドニーとプラハにおいてつなげてきたワークショップの共同制作を、さらに発展させ、つなげ、その制作をもとにシドニー、日本において展開する。異国を行き交い変容した作品について鑑賞しあい、「生命(いのち)のイメージ」を主題に、新たな造形を創造していく。

○制作活動において
・ボルドーでの「日本文化ー伝統と現在ー」展において、自身の作品を発表し、フランスにおける本主題によるワークショップの可能性を調査し資料の収集を行った。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

これまでの日本、デンマーク、チェコ、オーストラリアでの活動をもとに、そこで制作された作品を本ワークショップにつなげ、子ども相互のコラボレーションによって実践事例を展開させた。また、同主題による自身の絵画制作の発表を別おこなった。

○ワークショップ「Dialogue of Life」の実践

- ・2004年8月 シドニー Globe 幼稚園にてワークショップ

2003年、同幼稚園で実践したワークショップの作品を、日本とプラハに運び活動をつなげ、再びシドニーに持ち帰り、制作を継続させていった。実践は二つの制作においておこなった。一つの作品は、長さ0.9×3.0mの布に、色と形をつなげた共同制作(A)で、もう一つは、葉書の大きさの手すき和紙の作品に、生命のイメージを描き、つなげ、一つの作品にしたもの(B)。

- ・2004年8月 シドニー Tempe 小学校にて鑑賞会

2003年にワークショップを試みた子どもたちの作品を、再び持ち帰り、日本とチェコの子どもたちによって変容し深化した作品と、活動の映像を鑑賞し、作品の内容と意味について理解を深めた。

- ・2004年9月 富山県利賀小学校にてワークショップ

その作品を再々度持ち帰り、その作品の上に、さらに色と形を加え作品を深化させていった。

○作品制作

- ・2004年11月 ボルドーにて作品展

本主題について自身が制作した作品をボルドー市主催の「日本文化—伝統と現在—」展において発表をおこなった。(180×180cm 手漉き和紙、アクリル顔料)

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①美術	②造形	③図画工作	④表現
⑤生命観	⑥自然観	⑦コラボレーション	⑧美術教育

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

○ワークショップ実践報告

- ・実施園、学校において、その後の作品鑑賞会を設定。
- ・チェコ、オーストラリア、フランスにおいてワークショップを継続。

○作品発表

- ・「日本文化—伝統と現在—」展 ボルドー市主催 2004年11月
- ・帰国展「日本文化—伝統と現在—」小原和紙展示館(豊田市) 2005年3月